
いざという時の備えは、日ごろの安心から

—その知恵と心構え—

第1回麻生区区民会議フォーラム
2013.9.7

明治大学 園田真理子

2011.3.11 福島県郡山駅前



2011.3.11 福島県郡山駅前



2011.3.11 福島県郡山市街地



2011.3.11 福島県郡山市庁舎 ペントハウス座屈



2011.3.11 福島県郡山市街地



2011.3.11 川崎市多摩区 園田研究室



2011.3.11 川崎市多摩区 園田研究室



2011.3.11 川崎市多摩区 園田研究室



2011.3.11 川崎市多摩区 園田研究室



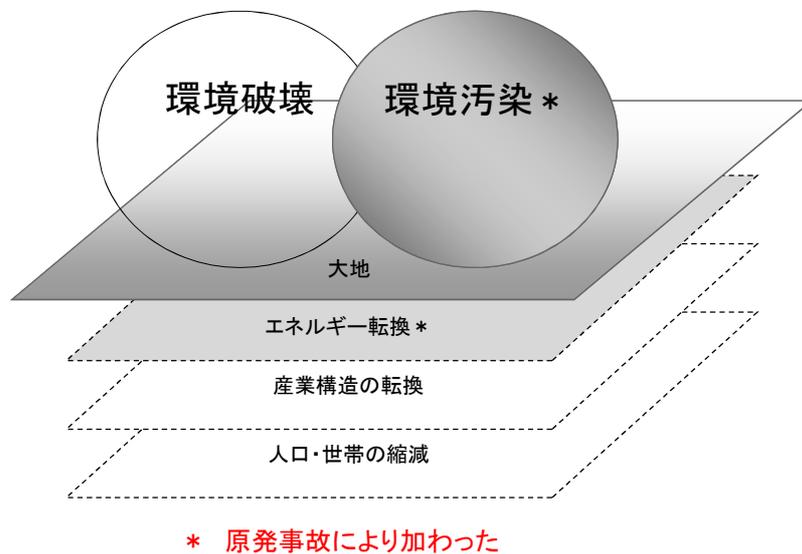
2011.3.11 川崎市多摩区 園田研究室



2011.3.11 川崎市多摩区 園田研究室

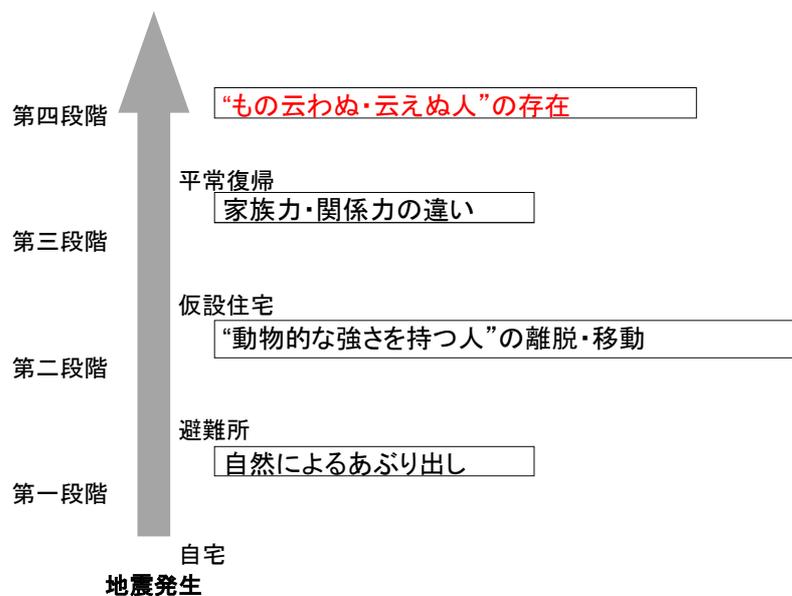


東日本大震災の構図



13

「弱者」とはどういう存在か



14

郊外住宅地はどのように生成、発展してきたか

植物の成長と同じ

線路が伸びる

駅から道路が丘、台に向かって伸びる

丘の上に、葉っぱのように住宅地が形成される

お父さんは「働き蜂」。丘の上からおりてきて、毎日養分を巣に運ぶ

育った子供は丘の上から巣立っていった

お父さんは働きを終えて、丘の上に戻ってきた

60年代後半：「多摩川」を越えて、西方面へ拡大

70年代半ば：「荒川」を越えて、埼玉、千葉方面へ

80年代以降：「利根川」を越えて常磐へ、埋立地へ



川崎市北部の人口動態(多摩区の例)

□ 郊外住宅地の発展と現況

戦後の経済成長が、郊外と呼ばれる現在のベッドタウンを形成



バブル経済崩壊以降、生産年齢人口の減少、高齢化



郊外住宅地の危機

川崎市北部は人口動態で見ると、人口・世帯数共にこの20年間は微増傾向にある。

その意味では、**麻生区・多摩区は郊外住宅地の縮減危機にはまだ巻き込まれていない。**

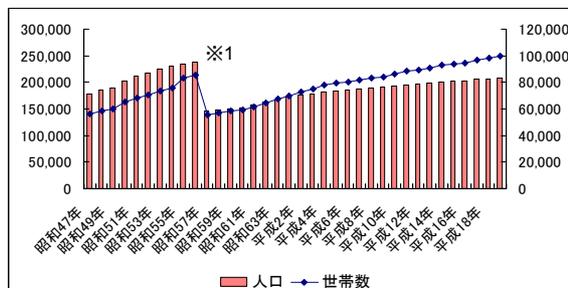


図1 多摩区の人口動態

※1 昭和57年に多摩区が麻生区と分区

福祉の地域拠点の必要性

現在...

- 急速な少子・高齢化の進展
- 家族規模の縮小
- 地縁関係の希薄化

居住環境の変化

地域に住み続けるためには
日常的なきわめて細かな支援
が必要とされている。

居場所づくり
福祉の地域拠点の構築

20世紀後半に形成された東京西郊の川崎市多摩区三田地域



川崎市多摩区西三田団地地区

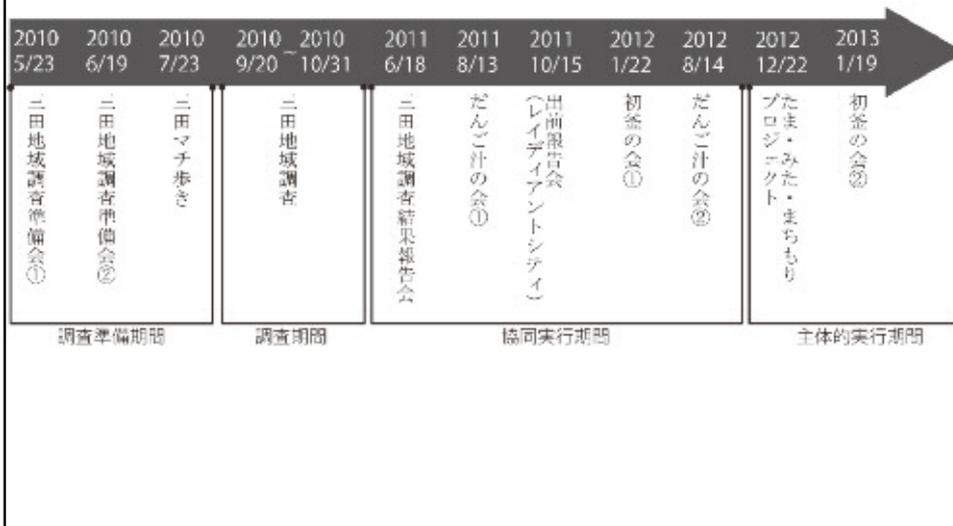
- 開発**
- 1966年に当時の日本住宅公団によって開発された分譲団地。EVのない5階建て。
 - 開発当初は、生田中学校と明治大学以外は何も無い殺風景な街並み
 - 子供の預け合いなどの相互扶助により、近所の輪が広がっていった。
- 各住民が直面した「個」の問題の共有化**
- 住民アンケートを住民自らが実施し、行政に住環境整備を訴え、実現させていった。
 - 「地域」の問題への取り組み**
 - 高齢化が明白になり、関心の高い主婦達が集まって自主的に勉強会を開く。
- 1990年**
- 集会所を週1回で借り、「コスモスの会」を開設。
- 2000年**
- 「コスモスの家」の名称を変え、4度移転した後、現在は介護保険事業を行う。
- 現在**
- 川崎市地域福祉計画策定時に「コスモスの家」を中心に、住民アンケート実施する
 - 誰でも気軽に利用できる場「三田ふれあいセンター」開設。
 - 住民による「三田まちづくり委員会」発足



住民主体のまちづくり活動の変遷・経緯

住民・学生等による地域協働の多摩区三田地域におけるまちづくり活動

時系列でみた主な活動





まちもりカフェの開設

経緯と目的

活動を通して、三田地域の向上には本格的な行動が求められ、地域の拠点が必要になってきた。



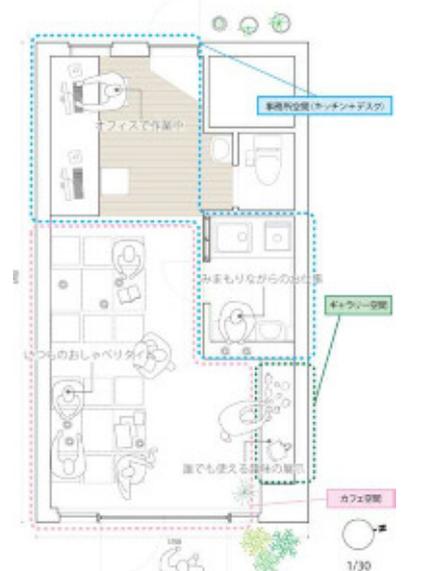
地域のたまり場や居場所、住民や地域内のNPO・企業がつながる場を創出し、地域が繋がり、個々のリスクを軽減するサービスを提供することを目指す。



施工



みち・まちもりのつぎ
お待たせしました! 5/15 (水) OPEN!



三田サポートわなり+明大まちづくり研究所



みた・まちもりカフェ



展望

24/25

郊外住宅団地における住民主体のまち起こし・元気起こしの活動とその発展のために

①問題の共有化

まちづくりの発展のあり方として、各個人の問題を共有して取り組んできた経験がある。そのことから、地域(団地)の問題もそれぞれの地域ごとに取り組むのではなく、他の地域と広く問題を**共有化**することで、今後の発展に繋がると予想できる。

②地域になじんだ活動と活動拠点の構築

単に行政の手によって全てを行えばよいということではなく、**地域に住む人同士が主体的に、役割をもって活動する**ことが重要。

また、活動の充実や発展のため、活動の拠点(ハブ)が必要。拠点から様々に枝分かれし、また枝がつながる**活動のネットワーク化**が鍵。**網の目が細かいほど安心が大きい。**

③地域に安心して住み続けられる環境の構築

地域住民主体の「**シニア・ペンション**」、学生たちも含めた「**シェア居住**」の可能性。そうした生活をサポートできる地域力、仲間力の醸成とネットワーク化。

子育て中の若い家族や学生たちを「まち起こし」に巻き込むことが重要！

